



# 「信さん・炭坑町のセレナーデ」 あの頃誰もが一生懸命でまっすぐだった。

昭和30年代の炭鉱を舞台に人の情やふれあいを描いた映画「信さん」  
小雪さんを主演に、一昨年秋、田川市を中心に九州各地でロケが行われました。  
200人以上の田川地区住民がエキストラで参加したこの映画の  
公開が決まり、「田川先行上映会」を3月13日(土)に行います。



## あらすじ

昭和38年、母の美智代とともに九州のどある炭鉱町に降り立った小学4年生の守。都会の暮らしから一転して始まる炭鉱町の生活の中、一人の少年が守の前に現れる。町では知らないものはいない札付きの少年信一、通称信さん。父親を早く亡くし、叔父夫婦の養子になっていた信一は、いつも叔父夫婦から、そして町中から厄介者のような扱いを受けていた。

ある日、悪ガキたちから息子を守ってくれた信一に、美智代はやさしく話しかける。「名前は何?」「信一」「一、信さん、やね。ありがと?、守は助けてくれて。」

誰も自分のことなどわかってくれない、いや、そう思っていた信一にとって、初めて自分を認めてくれた美智代の存在は特別なものになる。実の母親のようであり、それ以上に淡い恋のようであり。

美智代のごころに遊びにくるようになった信一は、次第に本来の明るさを取り戻していった。しかし、憧れの信一と母親美智代の関係に、複雑な心境の守。

ある冬の夜、信一の叔父が早世する。信一は一家を支えるため新聞配達を始める。月日は流れ、中学を卒業し体格も大人になってきた信一は炭鉱で働き出す。信一は美しく成長した義妹の美代を高校に行かせたいと思ひ、人一倍働いた。

そのころ、炭鉱は石炭から石油へエネルギー革命の波に飲まれ、人員削減を余儀なくされていた。信一は、今よりも稼げる仕事を求めて上京を決定する。

上京も決まり、将来に夢を膨らませながら炭鉱で働く信一。その時、炭鉱での事故から炭鉱で働く信一が美智代の耳に聞こえた。

監督 平山秀幸  
脚本 鄭 義信  
原作 辻内智貴  
出演者 小雪、池松壮亮、石田卓也、柄本時生、小林薫、中村大地、金海美穂、光石研、村上淳、中尾ミエ、岸部一徳、大竹しのぶ、ほか



↑映画は飯塚でも先行上映されます。詳細は飯塚観光協会 ☎0948-22-3511 までお問い合わせください。



## 「信さん・炭坑町のセレナーデ」先行特別上映会

- ▶場所 田川文化センター(田川市)
- ▶日時 3月13日 土 ① 13時~上映・舞台あいさつ  
② 15時30分~舞台あいさつ・上映  
③ 18時~上映
- ▶鑑賞券【前売り】1,500円(全国共通券)  
【当日】小学生1,000円、高校生(学生証提示)1,500円、一般1,800円
- ▶鑑賞券取扱所 平成筑豊鉄道本社(金田駅)
- ▶園 田川市役所 総合政策課 ☎44-2000



↑2月20日、連結された「炭都物語号」「浪漫号」に大浦小4・5年生が乗車し、炭鉱について学習。32人の児童は、「炭鉱の語り手」矢田政之さんの貴重な話を耳を傾けていました。

映画ロケ地の田川市から「炭都物語号」を映画のPRに」とお話があり、この企画が実現しました。日本の近代化を支えた炭鉱や鉄道について知ってもらおうという目的で登場した新車両「炭都物語号」に、昭和30年代の炭坑町を舞台にしたこの映画はぴったりとマッチすると思います。さらに近代化産業遺産をイメージした「浪漫号」も活用されます。この企画が、忘れ去られた歴史と遺産が内外に再認識されるきっかけに

郷土の歴史と遺産が内外に再認識されるきっかけに  
実行 嘉則 専務 ● 平成筑豊鉄道(株) 代表取締役

るきっかけとなり、学習や観光分野での利用につながるとも思います。伊田・糸田・田川線は、炭鉱とともに産業の近代化を支え、地域に繁栄をもたらせてきました。しかし今、地域の財産であるその鉄道は存続の危機に直面しています。わたしたちは、この状況を乗り切るため、今まで以上に安全で快適なサービスや積極的な経営改善に努めながら、地域の歴史や鉄道に親しんでいただけるような企画を実現していきたいと思ひます。今後とも、皆さまの温かいご声援と積極的なご利用を心よりお願い申し上げます。



Interview with Yoshioi Yukitake

「浪漫号」は、へいちく沿線地域に点在する炭鉱遺産に使用されている赤レンガをイメージしたカラーに、木目調の床などが特徴のレトロ風車両です。どちらの車両も車内窓の上に田川ロケでの映画スチールとエキストラ写真や宣伝ポスターが飾られ、車内はまるで映画館のよう。さらに液晶テレビを2台備える「浪漫号」では、映画の予告編やメイキング映像が上演されています。

この企画は2月9日から映画が特別上映される今月13日まで行われ、主演の小雪さんをはじめ、エキストラやスタッフなど、映画とは違った貴重なシーンが納められているので「一見の価値ありです。運行時間は毎日変わりますので詳しくは平成筑豊鉄道までお問い合わせください。(☎22-1000)。」

「鉄道会社が車両を使って映画を宣伝する」というこのめずらしい取り組みは、たくさんの人に映画を見てもらい、昔を懐かしむだけでなく子どもら、子どもたちにもふるさとを伝えてもらうという学習や、外部に炭鉱遺産などをアピールする観光につながる、地域の活性化へと広がっていくきっかけになるのではないのでしょうか。



↑ 荒川くんが事務所員役、原くんが労働者役として出演した「労働争議」のシーン。炎天下の中撮影が行われました。

Extra  
エネルギーな撮影現場  
荒川将太郎くん(金田) 原聖明くん(赤池)

エキストラとして映画に参加しましたが、スタッフも出演者もみんなエネルギーで楽しい現場で、昔炭鉱で起こっていた出来事を肌で感じた有意義な体験でした。先日、通学時に「炭都物語号」を利用しましたが、撮影現場を思い出しながら写真に見入ってしまいました。自分たちも映画の公開が待ち遠しいです。

